

「水島の観光の可能性」を考える

除本理史（大阪公立大学教授）

2023年度みずしま滞在型環境学習コンソーシアム活動交流会において、筆者と当ゼミ生から「水島の観光の可能性」に関する話題提供をさせていただいた。内容は当日のPowerPoint資料をご参照いただきたいが、今回お話する機会を与えていただいた経緯は次の通りである。

大阪市立大学／大阪公立大学・除本ゼミ（環境政策論ゼミ）は、2022年度、みずしま滞在型環境学習コンソーシアムが採択された観光庁事業と連携する形で、活動を行ってきた。2022年9月11～12日の2日間、コンソーシアムに受け入れていただき、水島でゼミ合宿を行うことができた。2日目には、まちづくりに取り組む人たちとワークショップを開催し、観光案内板の設置場所8か所を選定した。それを受けて2022年度後期には、学生・院生が観光案内板の説明文案の執筆や写真の選定を行った。

2023年度には、2名の学生が水島をテーマに卒業論文を執筆した。今回、参加させていただいた寺坂舜星君は『水島の「困難な過去」と観光政策——水俣と比較しながら倉敷市の役割を考える』というタイトルで卒論を書き、活動交流会でそのエッセンス（結論部分）を報告させていただいた。

水島の経験してきた「困難な過去」は、教育や観光まちづくりの資源として活かせる十分なポテンシャルをもっている。当ゼミも継続的に足を運び、学ばせていただきたい。



除本理史・佐無田光(2020)『きみのまちに未来はあるか? 「根っこ」から地域をつくる』岩波ジュニア新書。

みずしま滞在型環境学習コンソーシアム
2023年度活動交流会

「困難な過去」の学びと ツーリズム

2024年3月16日 水島公民館
よけもとまさふみ
除本理史(大阪公立大学)

経緯と自己紹介

- ・大阪市立大学/大阪公立大学除本ゼミ(環境政策論ゼミ)は、2022年度、みずしま滞在型環境学習コンソーシアムの採択された**観光庁事業と連携**し、活動を行ってきた。2022年9月11~12日の2日間、水島でゼミ合宿を行い、2日目にまちづくりに取り組む人々とワークショップを開催、観光案内板の設置場所8か所を選定。2022年度後期には、学生・院生が観光案内板の説明文案の執筆と写真の選定を行った。
- ・2023年度には2名の学生が水島をテーマに卒業論文を執筆。寺坂の論文タイトルは『水島の「困難な過去」と観光政策——水俣と比較しながら倉敷市の役割を考える』(のちほぼ結論部分を報告)



概要

- ・現代の観光政策と「困難な過去」の学び
 - モノからコトへ:ストーリー構築の重要性
 - 「困難な過去」も「地域の価値」を構成する
- ・公言学習とツーリズムを結びつける
 - 水島での取り組みの重要性



着地型観光

- ・旅行者を受け入れる側の地域(着地)側がその地域でのおすすめ観光資源を基にした観光商品や体験プログラムを企画・運営する形態です。**地域性の強い観光資源**を基にプランを作ることにより、多様化する旅行者のニーズに対応することが可能となり、**地域の活性化**にも貢献することになります。
- (出所)「着地型観光商品 開発・販路開拓事例」中小企業基盤整備機構
- ・単に「観光資源がある」だけでなく、「**複数の観光資源をつなぐストーリー**」が必要

商品化の例)国による「ストーリー化」⇒観光商品

『日本遺産(Japan Heritage)』とは

日本遺産は、遺産や景観などから文化財・自然等を採集する世界遺産とは異なり、地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを認定し、ストーリーを語る上で不可欠な魅力ある有形・無形の文化財群を地域が主体となって総合的に整備・活用し、国内外に積極的に発信することにより、地域の活性化を図るため文化庁が2015年に創設した制度です。各ストーリーが広域に渡って展開されているため、ひとつのストーリーにたくさんの見どころがあることが魅力です。

<https://www.hankyu-travel.com/japan-heritage/>



「モノづくり」から「コトづくり」へ pp157-160

- 20世紀の経済:規格化された画一的な商品が大量に生産・消費され、それにともなって地域の固有性も失われていった。
- しかし現代では、「モノ」の量的な豊かさよりも、それによって得られる「知識」や心温まる「感動」といった無形の要素を重視。
- 何ら新しいものを生産しなくても、すでにあるものに対して「意味」を与えるだけで価値が高まるとすると、経済活動の様相は一変する。現代では「モノづくり」だけでなく、「コトづくり」(ストーリー・解釈の生産)が重要になっている。

あるものを使う地域のリノベーション



「困難な過去」から「地域の価値」へ

pp168-170

- 地域の歴史には「**困難な過去**」も含まれる＝“地域の個性”を構成する
- ヒロシマ・ナガサキ、水俣などの公害事件、原発事故など -いわゆる「ダークツーリズム」との関連



水俣「もやい直し」の意義

(除本・佐無田2020:57-59)

■ 公害による地域社会の崩壊を乗り越え、地域の再生をめざすため、当時の吉井正澄市長は「もやい直し」という標語をかかげた⇒水俣病の「前面化」、地域固有の価値

〔地域の〕個性とは、他をもって代えることのできないその地域における価値です。ほかのことで代替できない価値です。…たった一つ、水俣にしかない個性があります。それが公害の原点と言われる水俣病ですね。…これこそが**水俣の個性**だと思います。

ところが、この個性は今まで水俣市民を苦しめてきた、すごく強烈なマイナスの個性だったんですね。これがまちづくりに役立つのかとだいぶ批判されました。しかし私は、逆だと思っているんですよ。(吉井正澄・元水俣市長)



「みずしま地域カフェ」と水島メモリーズ



- みずしま財団は2021年度から、公害資料館をつくる活動の一環として、地球環境基金の助成を受け「みずしま地域カフェ」の取り組みをスタート
- 地域の歴史を掘り起こす
- 複数人で、地域の人たちにヒアリング
- 現在→過去→未来 でストーリー化(参加者全員でチェック)
- 過去の写真を探す(倉敷市歴史資料整備室、地元の写真家など)
- 小冊子「水島メモリーズ」にまとめて、配布



- まとめ:
- モノからコトへ: ストーリー構築/解釈の提示が重要に
 - 「困難な過去」をまちづくり・地域振興に活かす
「困難な過去」も「地域の価値」を構成する
 - 水島の取り組みへの注目が広がっている。

cf: 除本理史・林美帆・藤原園子(2023)「公害学習とツーリズム: 岡山県倉敷市水島地区の取り組み事例」『経営研究』第74巻第2号

みずしま潜在型環境学習
コンソーシアム
2023年度活動交流会

卒論報告
水島の「困難な過去」と観光政策
—水俣と比較しながら倉敷市の役割を考える—

2024年3月16日
水島公民館
てらさか しゅんせい
寺坂 舜星
(大阪市立大学文学部4年生)



13

自己紹介・概要

- ・岡山市出身です！
水島でいろんな人の
地元愛に接しました！
(以下、概要)
- ・「困難な過去」(とくに公害)を学ぶ拠点:水俣と水島の比較
- ・水島のポテンシャル
- ・倉敷市への政策提言



14

「困難な過去」(とくに公害)を学ぶ 拠点:水俣と水島の比較

・水俣

公的施設(国、県、市): 国立水俣病情報センター／
熊本県環境センター／水俣市立水俣病資料館

民間施設: 相思社「水俣病歴史考証館」

・水島

民間施設: みずしま資料交流館

⇒ **公的施設がない**

15

水島のポテンシャル1

- ・井出明(金沢大学)は、自身の訪問体験を踏まえ、
水島の「困難な過去」がもつ**観光資源としてのポ
テンシャルを高く評価**⇒ 課題はそれを活かして
いないこと
- ・水俣との比較:

	水島	水俣
人口	約9万人	約2万2千人
観光客数(H29)	319,000人	510,000人
年間教育旅行者数	544	2,914
民間の資料館年間訪問者数	1000程度	2000程度
市立の資料館年間訪問者数	なし	約4万人

16

水島のポテンシャル2

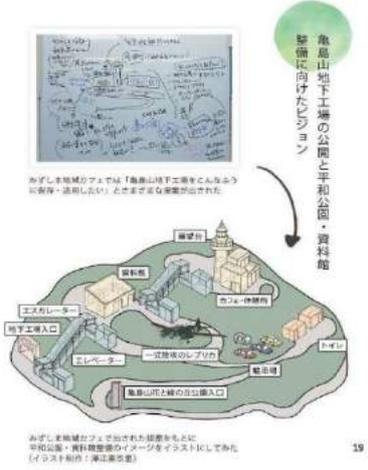
- ・**仮定** ① 人口規模に比例して、水島の市立公害資料館(ができた場合)にもそれだけ訪問者がくる(←誘致する側の人的リソースが人口に比例して増えると想定する)
- ② 訪問者がコンソーシアムのツアーの一環として、市立公害資料館を利用する
- ・水俣市立資料館は年間約4万人が来館(コロナ前、2017年)
水島の人口9万人
 $4万人 \times \frac{9万人}{2.2万人} = \text{約}16\text{万人}$
水俣の人口2.2万人
- ・10人/グループとすると 1.6万グループ
- ・研修費6万円/グループとすると **9.6億円**
の経済効果(この10分の1でも約1億円となる)
- + 訪問者の近隣での宿泊・消費を考えるとさらに大。

倉敷市への政策提言 2つの柱

- ① 「倉敷市観光振興プログラム」において、**水島の観光振興を積極的に位置づけること**
「倉敷市観光振興プログラム(第2期)」の第3章(5つの観光振興戦略を説明した章)において、**水島という地名は一度も出てこない**
- ② 倉敷市が水島地区において**公害・環境学習、平和学習の拠点となる施設を整備すること**
水島には「困難な過去」を学べる公的施設がない(公共施設の複合化で遊休する施設の利用も?)
亀島山地下工場を平和学習に利用できるように、安全対策を施しつつ保存・公開を検討すべきではないか(平和資料館の提案もある)

18

亀島山地下工場の
保存・公開と
平和資料館の提案
『水島メモリーズ 亀島山
地下工場編』
より



まとめ

- 以上2つの柱を実施することにより、水島の「困難な過去」がもつ観光ポテンシャルを顕在化させ、「持続可能な観光先進都市・倉敷」の実現に資することができると思う。
- 水島の資源を活用した、環境・平和・防災の学びは倉敷市の重視する「SDGsの推進」「日本遺産の活用」とも深く関わる